

UZU ポスト No.7～授業のUD編～

Unlimited Zest for Update

2016.6.15 山崎 美樹

教室の中には様々な特色をもつ子どもたちがいます。それぞれに得意なこと、苦手なことがあり、みんなにとって分かりやすい授業にすることは、なかなか難しいものです。そこで鳴門教育大学教職大学院の「支援を要する子どもの理解と指導」(末内佳代先生)から、授業におけるユニバーサルデザイン(UD)について紹介したいと思います。

1. ユニバーサルデザイン(UD)とは

特別な改造を行ったり、特殊な設計をしたりしなくとも、最大限に可能な限り、**すべての人によって使用できる**製品と環境のデザイン。

- バリアフリー…特定の人
- ユニバーサルデザイン…すべての人

2. 学校におけるUD/授業のUD

〈学校におけるユニバーサルデザイン〉

一人の人間の価値を尊重し、**すべての児童生徒に快適で使いやすい環境や分かりやすい授業を提供すること**を目指す意識や態度。

★西中における環境のUD★

下駄箱を
きれいに使おう!

次の時間の準備をしましょう!

職員室の入り方

- ① 荷物を置く
- ② 失礼します
- ③ 学年・組(部活名)・名前
- ④ 用件を言う
- ⑤ 失礼しました

写真で視覚的にモデルを示す。

短い言葉で手順を分かりやすく。

〈授業のユニバーサルデザイン〉

通常の学級における発達障害のある児童生徒への指導・支援を通して、結果的にそれらが他の児童生徒にも有効となるような、「すべての児童生徒にとって分かりやすい」授業。

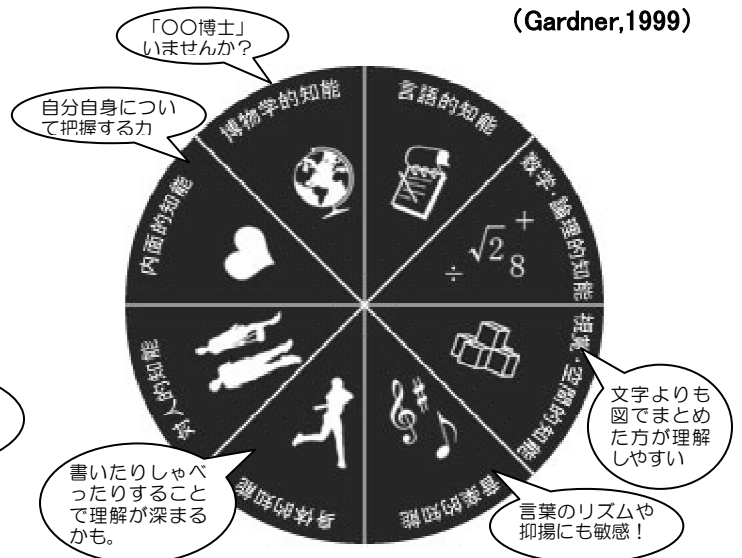
★ポイント★

- 一時間の流れや見通しを明確にする。
→子どもにも、教師にも意味がある!
- 動作を取り入れて注意集中をひきつける。
- 授業の展開や板書を構造化する。
- ポジティブフィードバックで関係をつくる。
→成果物等を掲示して学びを喜び合う。

3. MI理論を個別支援に生かす

多重知能(Multiple Intelligences)理論

(Gardner,1999)



「知能は単一ではなく、人間は誰しも複数の知能を持っている。長所やプロフィールが個人によって違うように、人によってある知能が強かったり、ある知能が弱かったりする。」という考え方。

これに基づいて子どもたち一人一人の得意な知能を見極め、それに応じた支援を行うことで、個別の支援を効果的に行うことができます。

さて、先生方お一人お一人にも、得意分野・不得意分野があるはず。いかがですか…?